

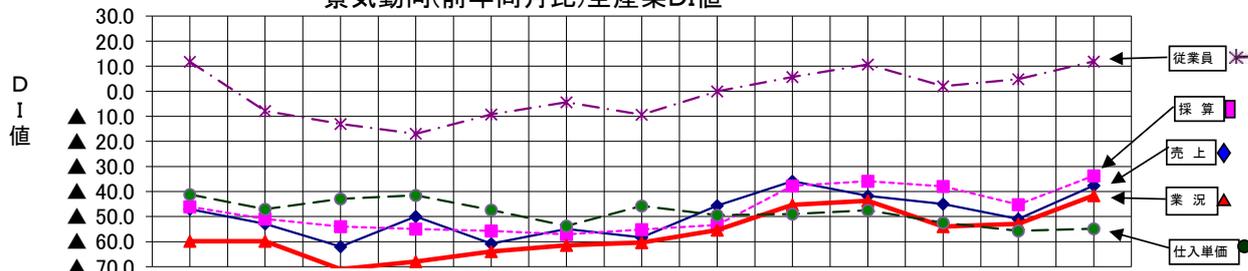
# 早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 3月分

## 【3月の概要】

### DI値は改善するも、苦しいコメント多く 依然として先行き不透明

業況判断DIがすべての項目で上昇、「売上」「採算」「業況」で10ポイント以上の改善（1年前の数値より改善）となった。一方、先行き見通しについては「売上」「採算」で悪化した。寄せられたコメントでは、工事の先送りや契約の解除など新型コロナによる影響があらゆる業態に及んでおり、また、原油高騰への懸念などもあり、依然として先行きの不透明感が窺える。コロナ禍収束に向けて、まずはワクチン接種がスムーズに進行していくことを期待する。

景気動向(前年同月比)全産業DI値



## 【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2020年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	2021年 3月
◆ 売上	▲ 47.1	▲ 52.9	▲ 62.0	▲ 50.0	▲ 60.8	▲ 55.0	▲ 58.3	▲ 45.7	▲ 35.9	▲ 41.8	▲ 45.0	▲ 51.0	▲ 37.6
■ 採算	▲ 46.1	▲ 51.0	▲ 54.0	▲ 55.0	▲ 55.7	▲ 57.1	▲ 55.2	▲ 53.3	▲ 37.7	▲ 35.9	▲ 38.0	▲ 45.2	▲ 33.7
▲ 業況	▲ 59.8	▲ 59.8	▲ 71.0	▲ 68.0	▲ 63.9	▲ 61.5	▲ 60.4	▲ 55.4	▲ 45.3	▲ 43.7	▲ 54.0	▲ 52.9	▲ 41.6
● 仕入単価	▲ 41.2	▲ 47.1	▲ 42.9	▲ 41.5	▲ 47.4	▲ 53.8	▲ 45.8	▲ 49.4	▲ 49.0	▲ 47.5	▲ 52.5	▲ 55.7	▲ 54.9
* 従業員	11.8	▲ 7.8	▲ 13.0	▲ 17.0	▲ 9.3	▲ 4.4	▲ 9.4	0.0	5.7	10.7	2.0	4.8	11.9

- ・マイナス幅が減少したDI値：売上13.4ポイント、採算11.5ポイント、業況11.3ポイント、仕入単価0.8ポイント
- ・プラス幅が増加したDI値：従業員7.1ポイント

## 全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
1月	▲ 32.0	▲ 37.0	▲ 45.0	▲ 18.0	1.0
2月	▲ 15.4	▲ 24.0	▲ 29.8	▲ 23.1	4.8
3月	▲ 18.8	▲ 25.7	▲ 24.8	▲ 17.8	2.0

- ・見通しが改善したDI値：業況5.0ポイント、仕入単価5.3ポイント、従業員2.8ポイント
- ・見通しが悪化したDI値：売上3.4ポイント、採算1.7ポイント

## 【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	電機	コロナウィルスの影響で工事の発注元の業績が悪く、工事が先送りとなっている。
	ゼネコン	ワクチン接種開始による設備投資の再開、増加などは無く未だ先行き不透明。
製造業	印刷	新型コロナで増える業務もあるが、本業は減少傾向、見通しが立てづらい。
	乳製品	昨年は緊急事態宣言による学校休校で給食の売上が大幅減少した。それと比較すれば売上増の見込み。
卸売業	住宅機器	一月が半期決算だったが、昨年よりも好転している。
	青果	首都圏の緊急事態宣言延長で、引き続き来県客が見込めずホテル・旅館等の業務需要は依然厳しい。
小売業	百貨店	前年と比べれば売上は伸びると思われるが、新型コロナの影響が続くと思われるため、決して楽観できない。
サービス業	ビルメンテ	年度末に向けて減額や解約などが増えてきている。
	老人ホーム	退所よりも、入所が少なく、空室が目立ってきている。
	タクシー	夜の動きが全くなく売上減少がひどい。原油高騰による負担はさらに大きくなる見込み。